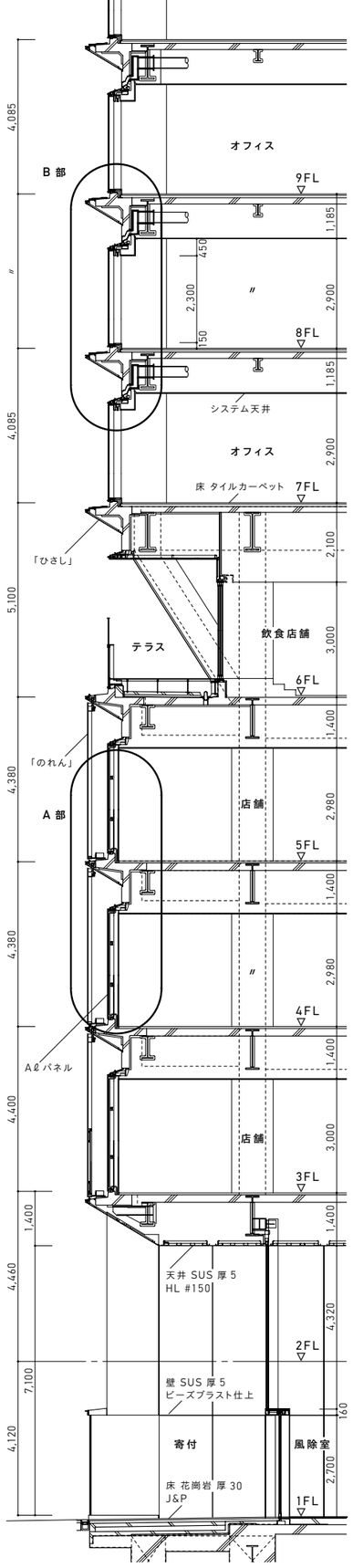
光彩を放つひさしと銀座ののれん

GINZA SIX
森ビル／アール・アイ・エー（PM）
銀座六丁目地区市街地再開発計画設計共同体
（谷口建築設計研究所：都市デザイン・外装デザイン，KAJIMA DESIGN）

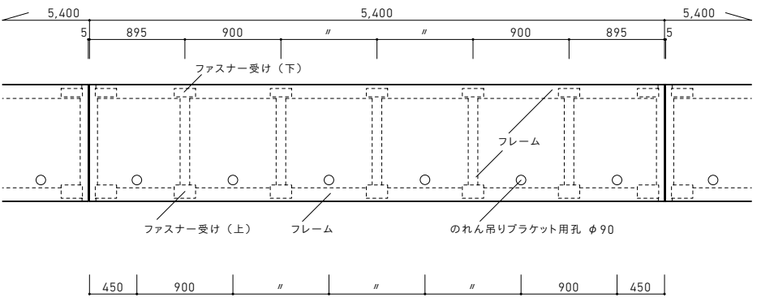
GINZA SIX　by Ginza 6-Chome Area Urban Redevelopment Project Design Joint Venture
(Taniguchi and Associates, KAJIMA DESIGN)

施工：鹿島建設 東京建築支店
PC工事：東海コンクリート工業，富士セメント工業
金属工事（軒天井，先端金物）：AAT，三菱ケミカル
のれん工事（のれん本体，支持金物）：旭ビルウォール
カーテンウォール工事： LIXIL，三協立山
金属工事（グレーチング）： AAT，ホクセイ
竣工：2017年1月
所在：東京都中央区
撮影：畑 拓

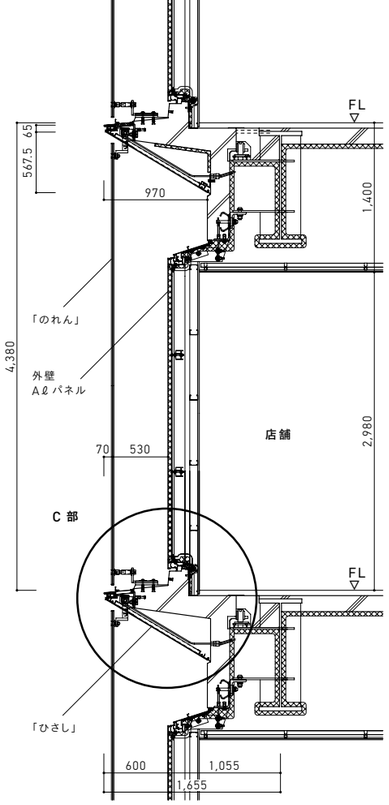


断 面　1／150

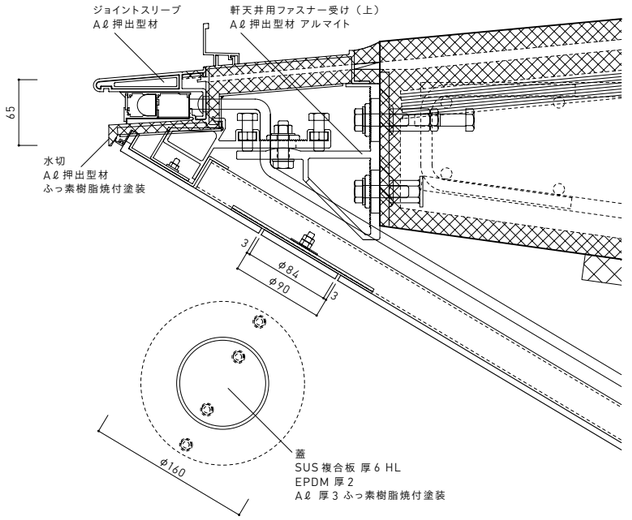
提供：KAJIMA DESIGN



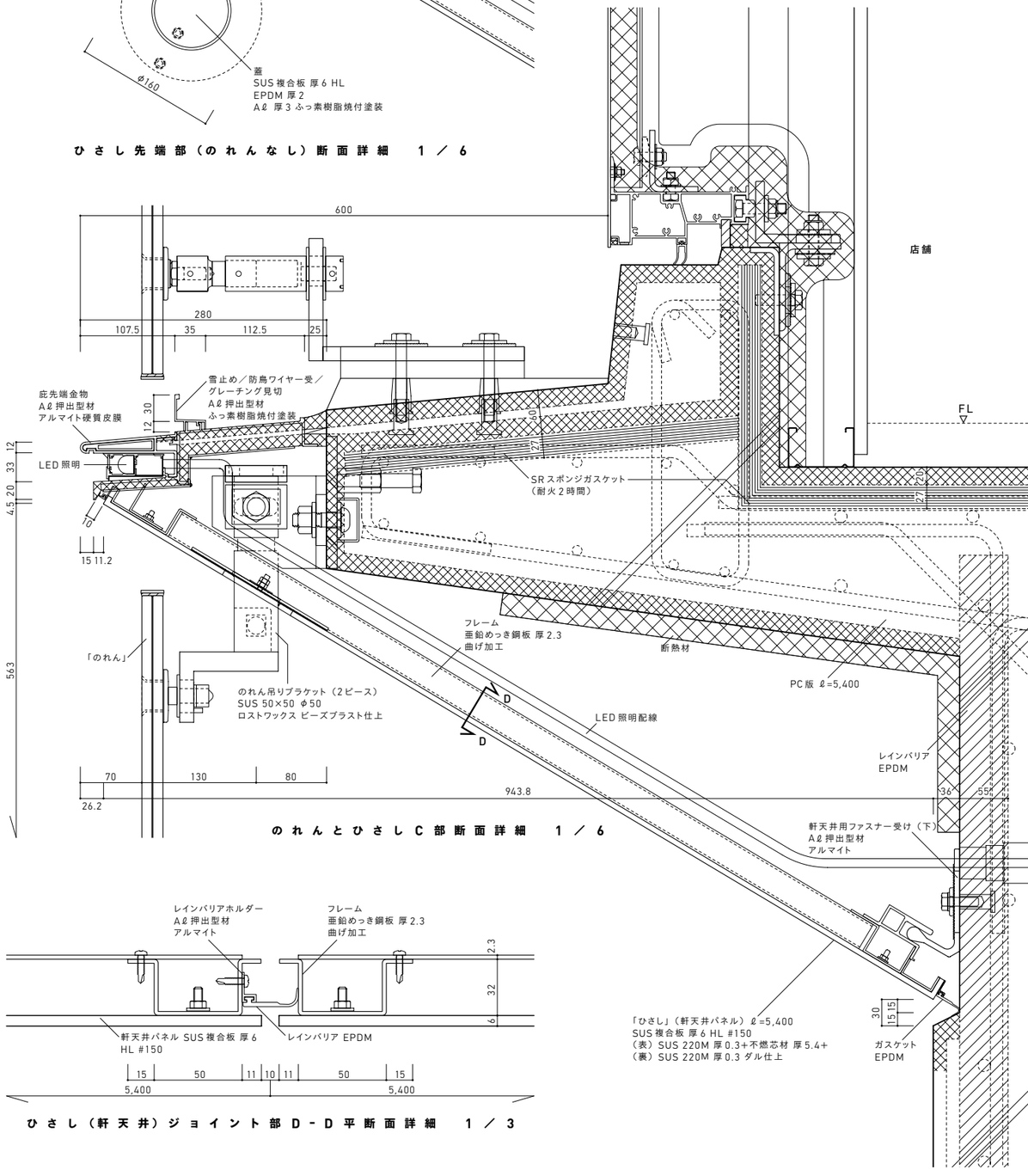
ひさし（軒天井）基準パネル伏　1／60



商業階A部断面　1／60



ひさし先端部（のれんなし）断面詳細　1／6



のれんとひさしC部断面詳細　1／6

ひさし（軒天井）ジョイント部D－D平断面詳細　1／3

ガラスインゴットの積層表現

HULIC & New SHIBUYA　櫻井建人／櫻井潔建築設計事務所・ETHNOS

HULIC & New SHIBUYA　by ETHNOS

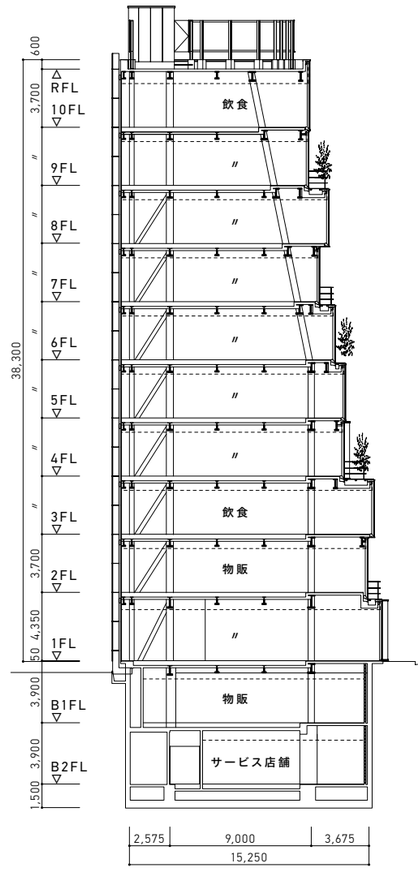
施工：西松建設

スチールカーテンウォール工事：ヤマキ工業

竣工：2017年5月

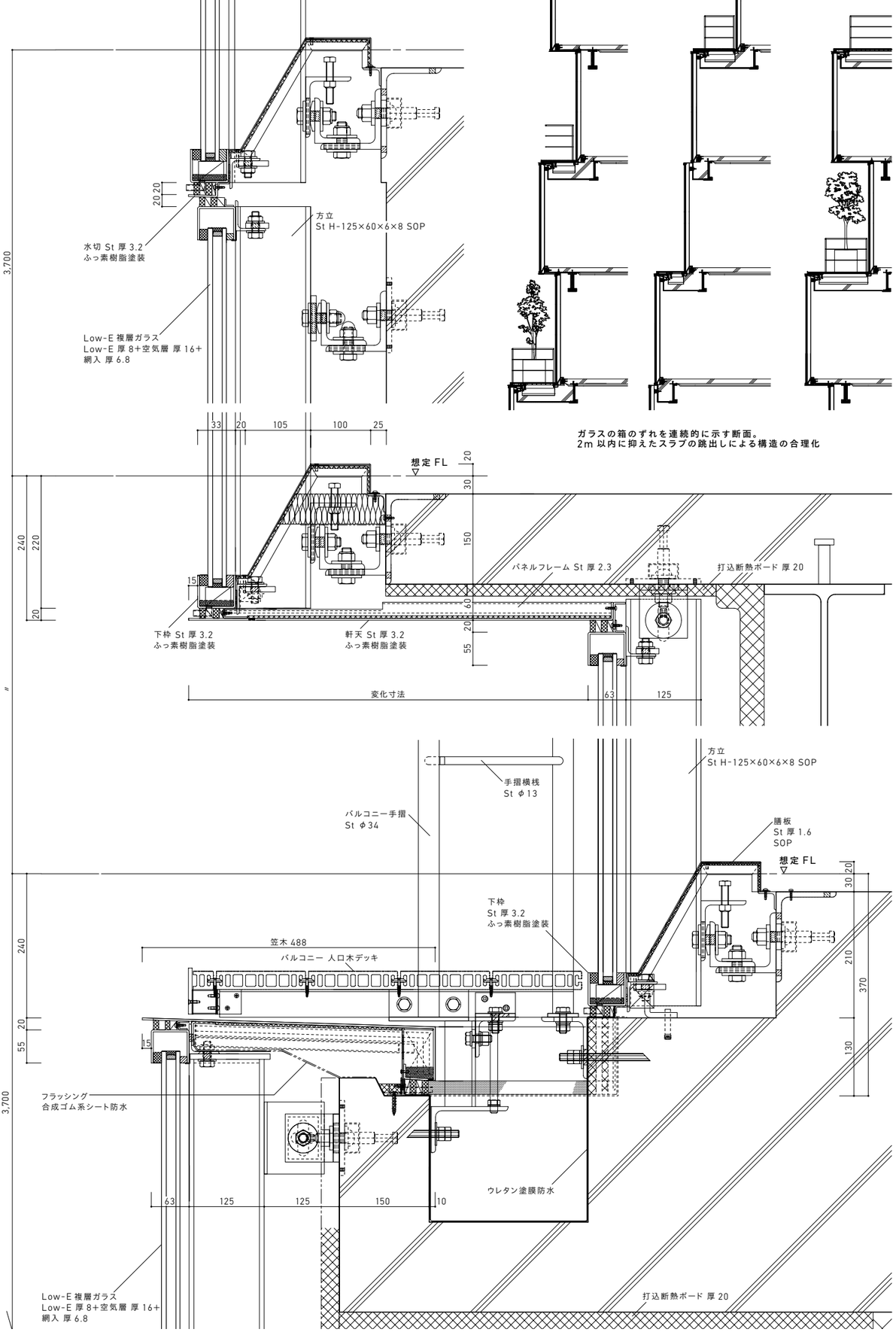
所在：東京都渋谷区

撮影：畑 拓

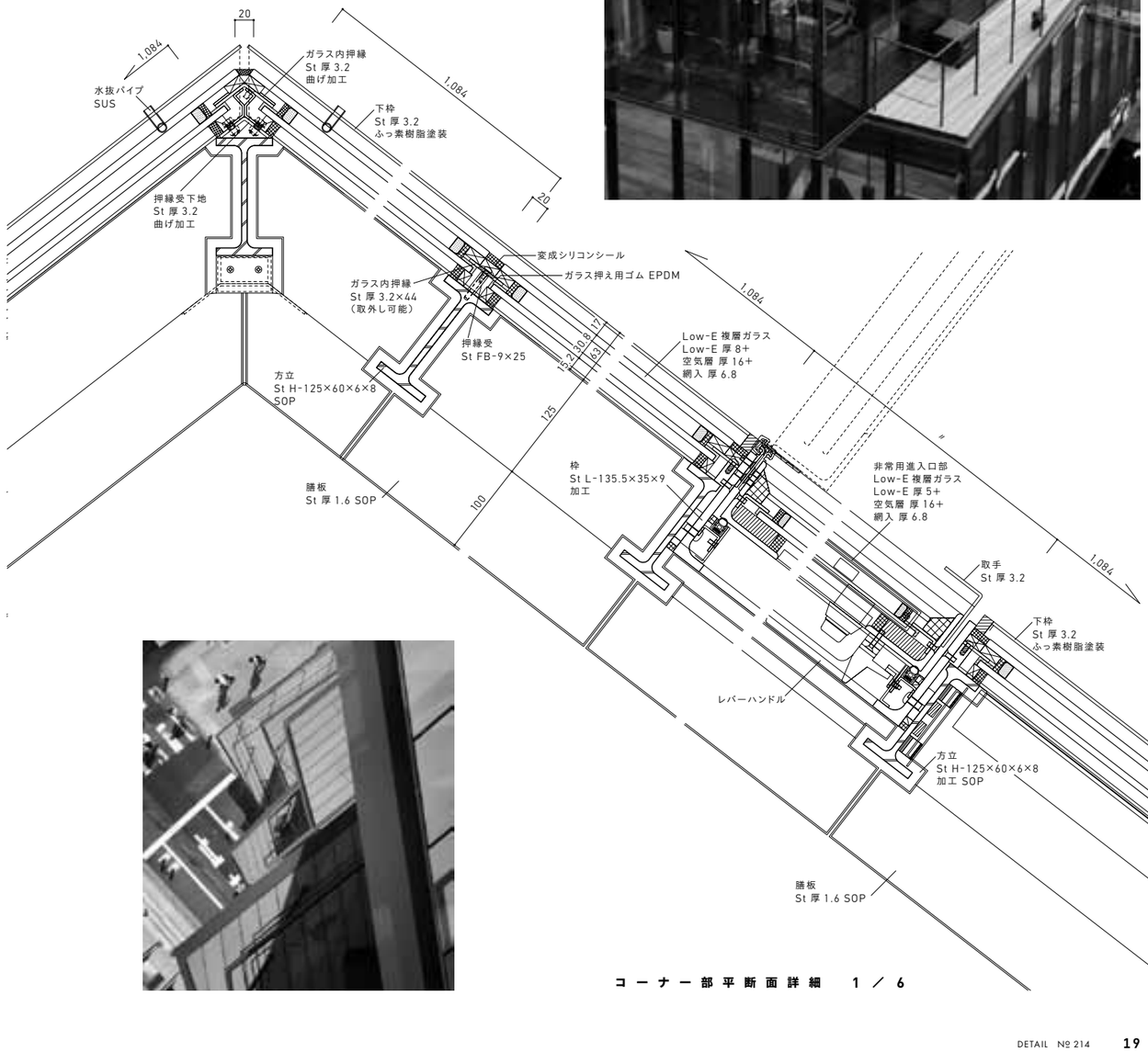


断面　1／400

渋谷センター街，角地に建つ商業施設。周辺は商業施設が林立し競い合うように看板を掲げている。各階を独立したガラスのヴォリュームとすることにより賑わいが表出し，看板ではなくヴォリュームで存在を認知させるというのがデザインの狙いである。天空率を駆使して賃貸面積を最大化し，設備シャフトをすべて外部化することで地上部基準階レンタブル比100％を実現。各階にガラスのインゴットが積み重なる表現とするために，サッシュレスの高さ3mを超える複層ガラス防火設備スチールカーテンウォールが開発され，鉄骨梁からコンクリートスラブを約2mの範囲で持ち出すことで複雑に見える形状を可能にしている。さらにバルコニー部分の防水納まり，意匠上重要なポイントであるパラペットと軒天の20mmのクリアランスがインゴットの積層表現を強化している。



ガラスの箱のずれを連続的に示す断面。
2m 以内に抑えたスラブの跳出しによる構造の合理化



コーナー部平断面詳細　1／6

「建築」なインテリア
——7つの型

弥田俊男

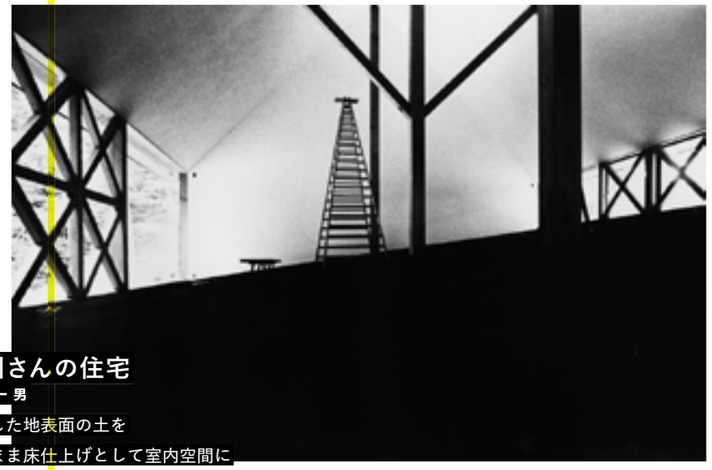
建築におけるディテールとは，それぞれに構想される建築を「建築」たらしめる全体性を成立させる際に，それを阻害しかねない諸要件を，見えないことにしてしまいたい破綻したほころびとせずに，解きながら取り込み，意識を末梢まで行き渡らせて，その世界観をより深化させ，強化するものであると考える。

それでは，インテリアにおける建築としてのディテールとはどういうものであろうか。雨・風・耐候性・熱収縮・変位・構造耐力といった外的クライテリアから自由となるインテリアでの建築的なディテールは，人間の体感や知覚・居住環境の快適性・内装関連法規・構造や設備などを統合した納まりが導き出す空間性，といった内的クライテリアに要請されるものであろう。インテリアの建築としてのディテールは，建築的なインテリアに宿る。

「建築」なインテリアかどうか。ここでは前段としてまずは，建築的インテリアの型を例として挙げてみたい。

TYPE 1 外を「内」化インテリア

外部の自然要素を，
内部空間に引き込んで
連続させるインテリア



谷川さんの住宅
篠原一男
傾斜した地表面の土を
そのまま床仕上げとして室内空間に
連続させた住宅。

撮影：多木浩二

撮影（2点とも）：
Flavin Architects

フレイハウスII
アルバート・フレイ
岩場を敷地とし，巨大な岩をそのまま室内に取り込んだ住宅。
岩と対比的な薄いシンプルな鋼板波板屋根と細いスチールの構造体が，
荒涼たる自然の中で建築の存在をさらに希薄にしている。

TYPE 2 内を「外」化インテリア

内部空間を外部に
〈見立て〉て，外部環境へと
室内を拡張するインテリア

撮影（2点とも）：Jérémie Souteyrat

時の流れる家
菅原大輔／SUGAWARADAISUKE
建蔽率40%という敷地条件から，内部に見立てた
外部と，外部に見立てた内部を，同じ砕石敷き
として連続させることで，建築が敷地をも越えて
都市へと接続してゆく。

沼袋の集合住宅
谷尻誠＋吉田愛／
SUPPOSE DESIGN OFFICE
床や壁の仕上げと床レベルの切替え，
掃出しの開口部といった処理によって，
室内の外周側を外部に見立てた中間的領域が，
都市の空中を自分の領域として獲得するような
広がりを居住空間に生み出している。

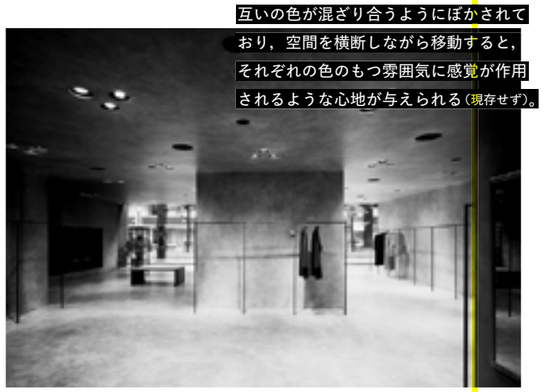
撮影（2点とも）：矢野紀行

TYPE 3 感覚操作インテリア

視覚，聴覚，触覚といった五感
に操作を加えることによって，
身体感覚を変容させるインテリア

提供：中村竜治建築設計事務所

梁
中村竜治建築設計事務所
目線だけを遮る鉄骨の梁を，展示室の床と
天井には触れず，壁のみで支えて架けた展示空間構成。
インテリアに構造的な決定要因をもち込み，
梁の組み方は自重によるたわみから調整されている。



撮影：阿野太一

ヨーガンレール丸の内店
乾久美子建築設計事務所
分割した空間の床・壁・天井をすべて同じ
色で塗り，空間が隣り合う境界線では
互いの色が混ざり合うようにぼかされて
おり，空間を横断しながら移動すると，
それぞれの色のもつ雰囲気に感覚が作用
されるような心地が与えられる（現存せず）。

#5

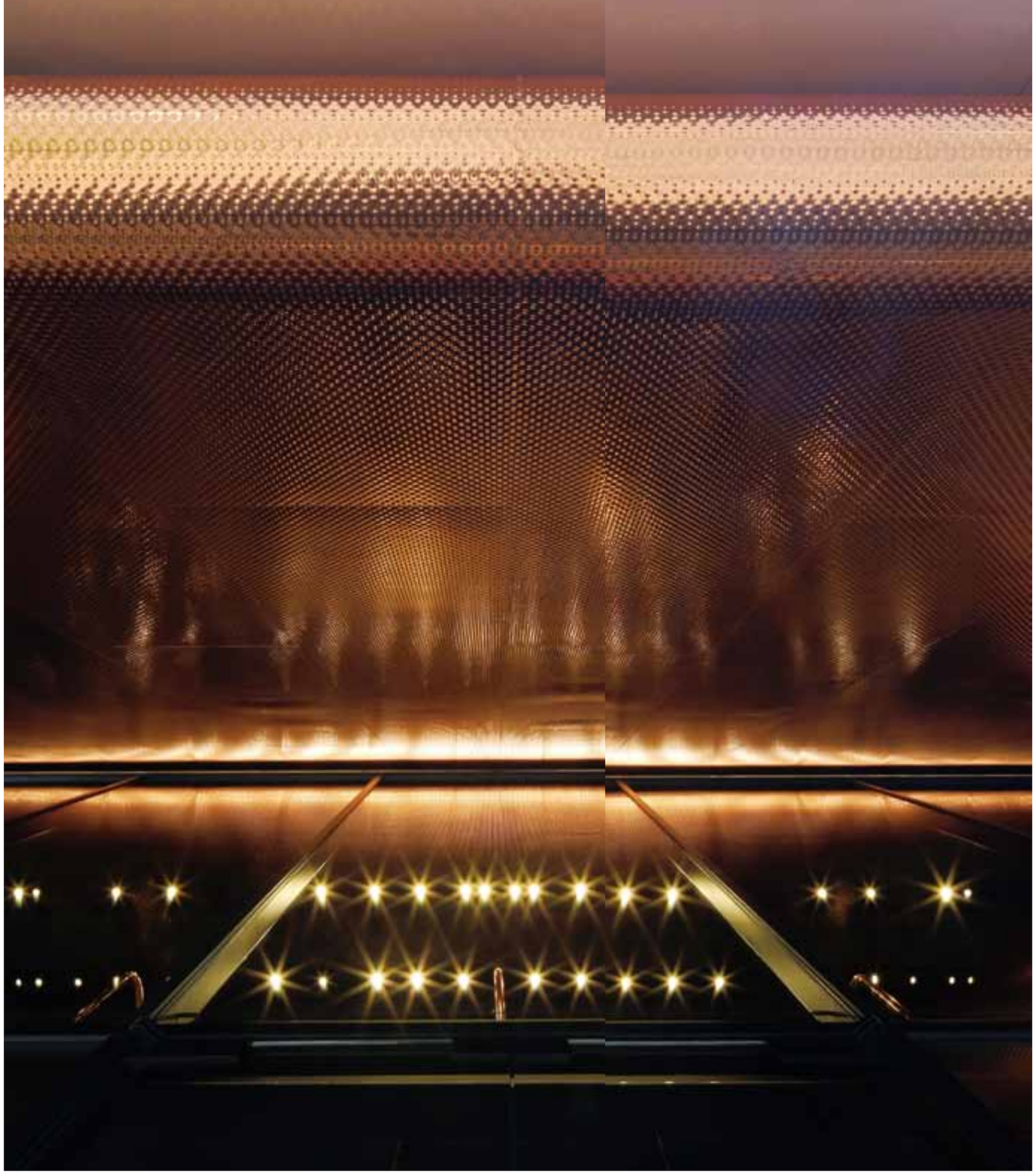
インテリアを構成する「裏地」

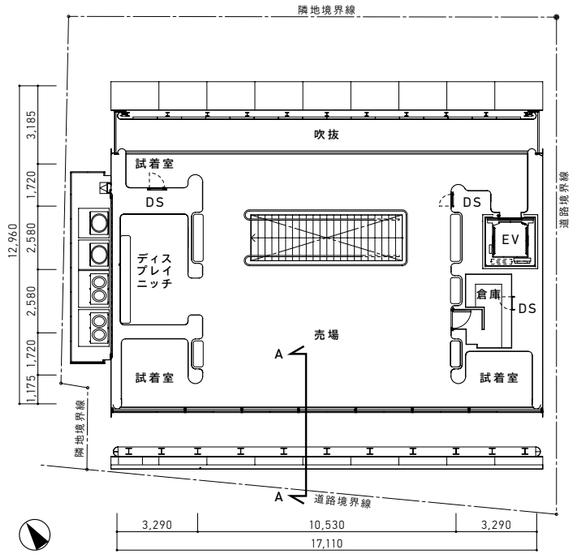
Miu Miu Aoyama

Herzog & de Muron（デザインコンサルタント），竹中工務店（実施設計・監理）

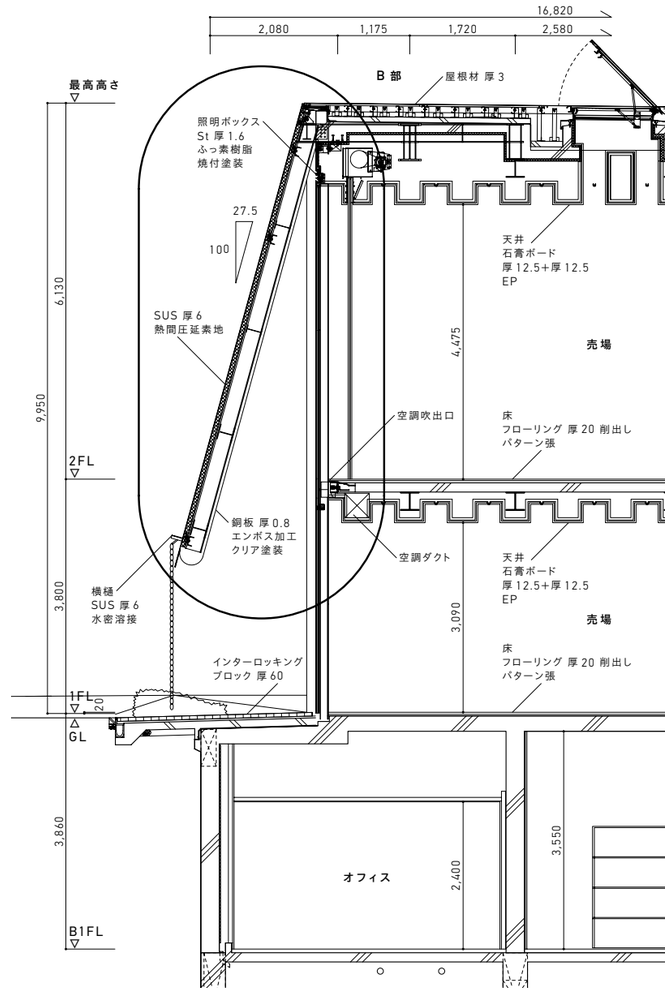
Miu Miu Aoyama
by Herzog & de Meuron,
TAKENAKA CORPORATION

施工：竹中工務店
構造：S造
規模：地上2階
竣工：2015年2月
所在：東京都港区
撮影：彰国社写真部



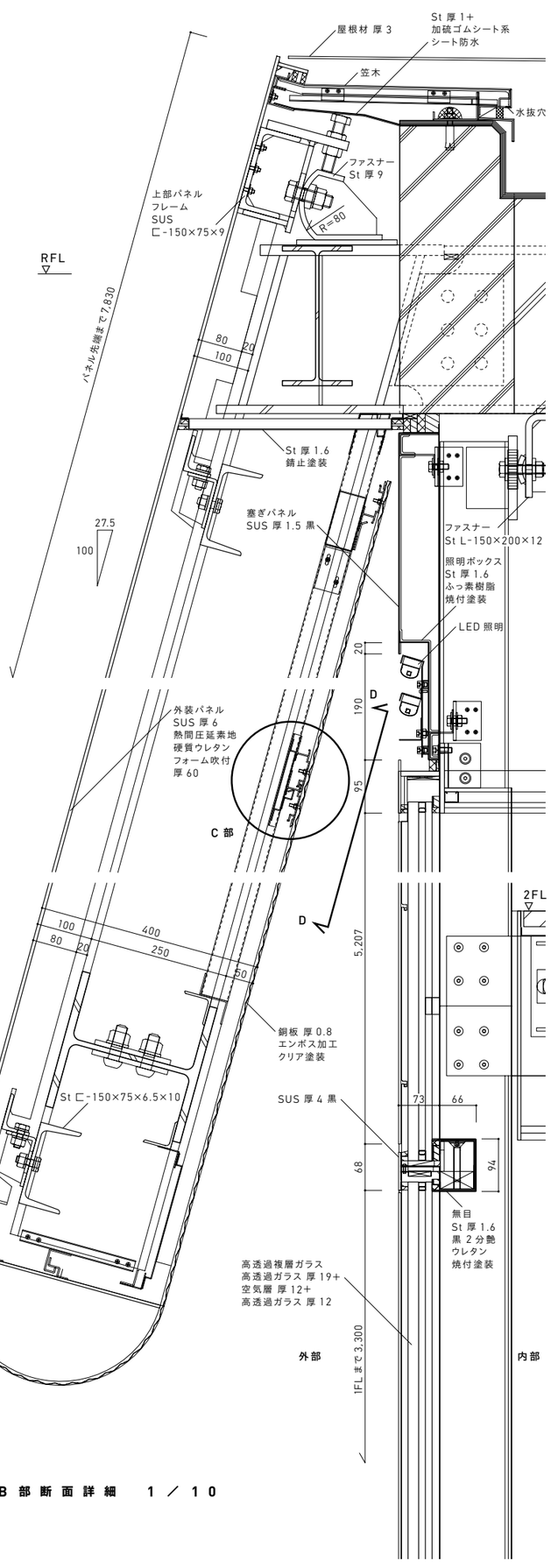


2階平面　1／250

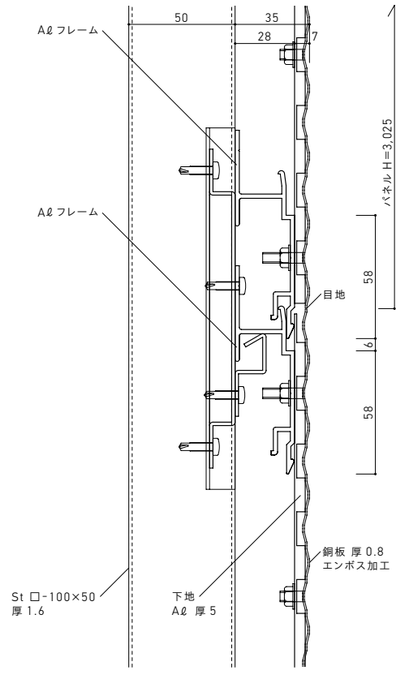


断面　1／100

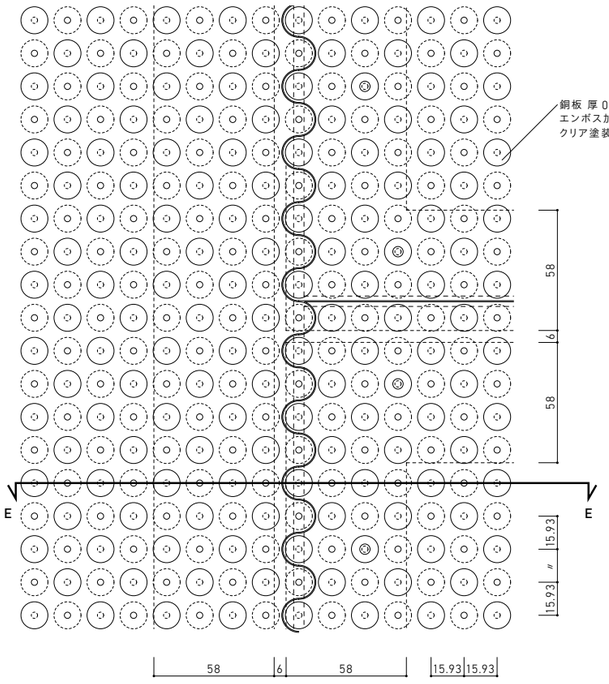
宝石箱をわずかに開いた印象をもつこの建物では，内装は外装の「裏地」として表現されている。この内外のコントラストは，素材とディテールによって強調されている。外装にはステンレス圧延素地材（板状に成形した生の状態）が用いられ，鈍くて寡黙な印象であるのに対し，その内側に施された銅板はエンボス加工され，さらに照明によって照らされることで，煌びやかなインテリアを創出している。外装は，ステンレス板の小口を見せたエッジの効いたディテールとする一方で，銅板の端部は湾曲してクッションのような厚みを感じさせている。銅板は0.8mmの材料に，5mmのアルミ板を裏打ちすることで，面精度を確保。さらに，相じゃくり形状のアルミ押出し型材を下地に活用することでビスを一切表に見せず，一枚の布のように連続した表現を可能にしている。（竹中工務店　花岡郁哉）



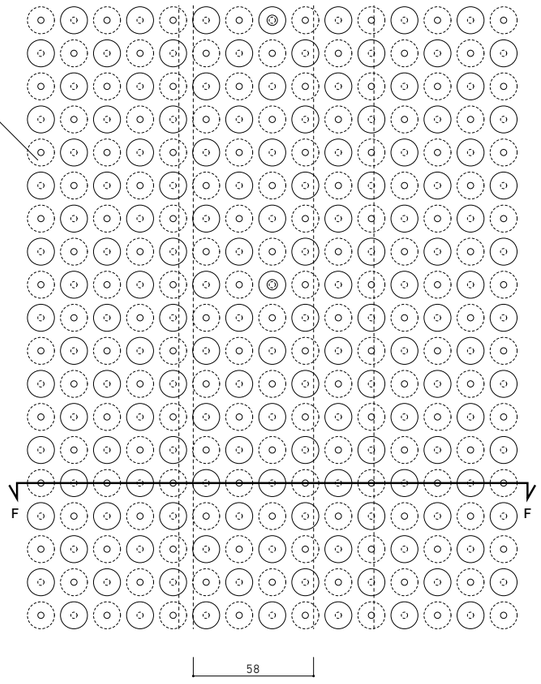
B 部 断 面 詳 細　1 ／ 1 0



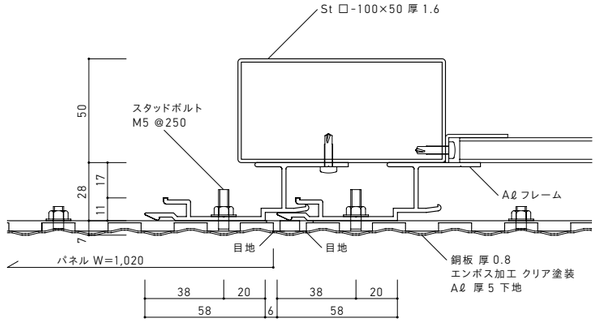
C 部 断 面 詳 細　1 ／ 3

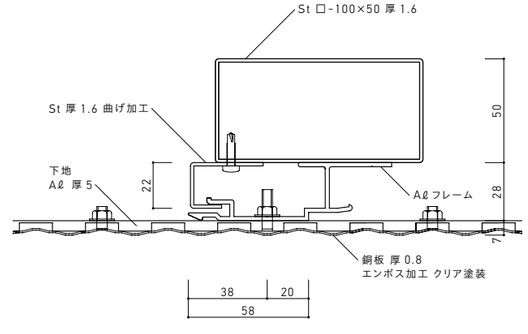


ジョイント部 D - D 立 面（上），E - E 平 断 面 詳 細　1 ／ 3



一 般 部 D - D 立 面（上），F - F 平 断 面 詳 細　1 ／ 3





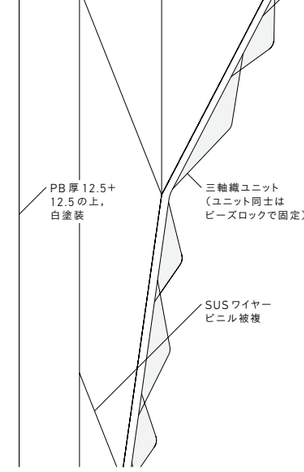
#6

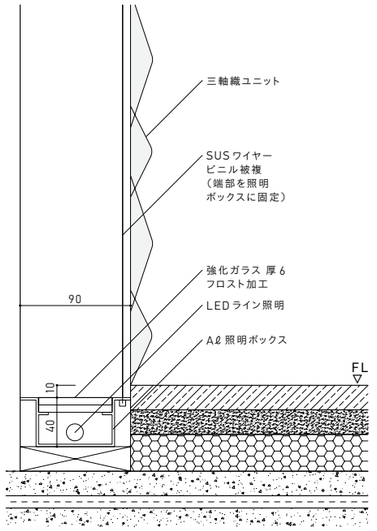
立体的な
テキスタイルが生む
雲のような柔らかさ

SHANG XIA MAISON
隈研吾建築都市設計事務所

SHANG XIA MAISON
by KENGO KUMA & ASSOCIATES

施工：乃村工艺建筑装饰（北京）有限公司
PM & Lighting Cordination :
Vermilion Zhou
構造：S造（既存）
規模：地上3階
竣工：2014年10月
所在：中国，上海
撮影：西川公朗

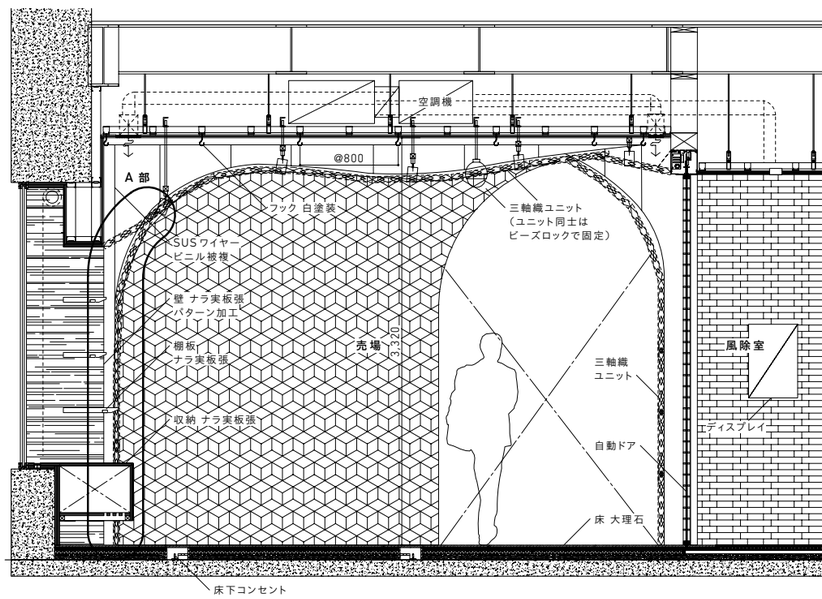




A 部 断 面 詳 細　1 ／ 5

上海にある上下（SHANG XIA）のメゾン。難燃ポリエステル製の三軸織りに熱成型によって立体的な表情を付けた一辺約600mmのユニットを約2,000枚並べ，壁と天井が連続する洞窟のような形状をつくり出した。ユニットを取り付けるベースとなるのはビニルで被覆されたSUSワイヤーで，床から天井を通ってまた床に補助ワイヤーを伴いながら洞窟の骨組みをつくっていく。このワイヤー端部は床に埋め込まれた照明ボックスを利用して固定され，床材と縁を切ることでディテールの簡素化と現場での修正の簡便性を目指した。ユニット同士は商品タグに利用されるビーズロックにより緊結され，近接するSUSワイヤーに固定される。このビーズロックも現場調整が容易であることが最も重要な採用理由であり，ノックダウンで構成されるラグジュアリーショップが多いなか，徹底的な現場主義を通した結果，他には見られない柔らかい印象の空間となった。

（隈研吾建築都市設計事務所　宮澤一彦）



断 面 詳 細　1 ／ 5 0